

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン**

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

2月初め、フィリピンからルイス・アントニオ・タグレ枢機卿様が、被災地に住むフィリピンの方々へミサを捧げるため、仙台教区のカテドラルである元寺小路教会へお越しくださいました。今回はミサの様子と、宮古ベースの活動の様子をご紹介します。まだまだ、被災地では支援を必要としている方がおられます。どうぞ、今後も被災地の方々へ寄り添っていただければと思います。

ありがとう タグレ枢機卿様

フィリピンで今、一番人望が厚く、人々が頼りにしているというマニラ教区大司教のルイス・アントニオ・タグレ枢機卿様が、2月1日、仙台でミサをささげてくださいました。

今回、タグレ枢機卿様は、2月3日に神戸で行われる「高山右近殉教400年記念ミサ」に出席するため、1日から仙台、東京、大阪、神戸とまわり、4日朝にローマへ出発される日程で来日されました。

お忙しい日程の中、タグレ枢機卿様は東日本大震災の被災地のフィリピンの人々にどうしても直接会いたいとご希望され、羽田空港到着後すぐに仙台へと移動され、夕方6時のミサ、ギリギリに元寺小路教会へ到着されました。枢機卿様についてのお話は、様々なところで耳にしますが、実際お会いすると、お若く、気さくなお人柄で、すぐに



仙台教区のフィリピン関係者を魅了していました。

タグレ枢機卿様の福音朗読後の説教の一部をご紹介します。

「仙台教区に來させていただきましたことを、まず平賀司教様に、そして皆さまに感謝申し上げたいと思います。

今日、皆さまと一緒にミサをささげられますことを、うれしく思っております。

仙台教区とフィリピンには、共通点がございませぬ。それは、3年前、仙台で大きな地震、そして津波がありました。最近、フィリピンでも地震、また、スーパー台風、強い台風が来てしまいました。

仙台教区とフィリピンの人々は、痛み、悲しみを共通にしています。それに、希望も一緒に抱いています。

今日は、キリスト者としての生活について、皆さんと分かち合いたいと思います。特に今日の福音と朗読の聖書の言葉から、その大事な点を申し上げたいと思います。

今日の福音の物語の中で、シナゴグにいた会衆のイエス様に対する反応は、このようでした。イエスのその教えに驚いたし、何よりも、そのイエスの持っている権威に驚いていました。会衆は、イエスと当時の長老たちを比較していたのです。その長老たちには権威がありませんでしたが、イエスには権威がありました。その宗教者のリーダーたちの権威は、どこから来ていましたか。その宗教の指導者たちの権威は、やはり、彼らの研究と、それぞれのタレント、また、教わった先生たちの教えを引用していました。そこから、彼らの権威が来ていました。私たちもそういった指導者たちを見ていることがあるのではないのでしょうか。

皆さんにお尋ねします。私たちは、イエスの権威を認めていますか。イエスの権威は、私たちの心に、そして私たちのすべての人生にしみこんでいるのでしょうか。

時には、イエスよりお金のほうに私たちは権威を認めます。例えば、CMを見て、CMの権威が私たちに入ります。そのCMに映っているものを、私たちは買ってしまいます。さらに、私が説教をするとき、皆さんは座り、大司教を見つめています。大司教は、皆さんが私の説教を聞こうとしていると考えます。ところが、2分経つとこっくりこっくりし始めます。イエスのところに行かず、寝てしまいます。しかし、テレビドラマを見ている時は、一生懸命その番組を見つめています。

今日の説教の言葉を聞いて、私たちは自分を反省しなければなりません。イエスの言葉が、本当に私たちにいちばん影響を与えているのでしょうか。

聖パウロのことばにあったように、私たちがどのような生活をしていたとしても、それぞれの生活の場で、まず、イエスを中心にしなければなりません。イエスを中心にしなければなりません。イエスが私たちの生活の中心となるように、少し黙想いたしましょう。」

ミサの最後、拝領祈願が終わった後に、平賀司教様からお忙しい中、お時間を取ってくださったタグレ枢機卿様へのお礼と感謝のご挨拶がありました。東日本大震災によって様々な苦難を味わったが、この震災によってフィリピンからの方々が大勢、仙台教区にいられたことがわかったこと。仙台教区の教会メンバーとして本当によく働いてくださっていて、フィリピンの方々のおかげで日本の教会が生気をもらっていること。そして今回タグレ枢機卿様がおいでくださったことで、もっともっと元気が出て、教会として活躍して下さるだろうというお言葉がありました。

その後、タグレ枢機卿様から平賀司教様のお言葉へのお礼と、以下のような挨拶をいただき、ミサが終了しました。

「平賀司教様がおっしゃったように、日本では、仕事だけではなく、ミッション・宣教も見つけていただきたいと思います。信仰、家族の愛、質素な生活を、どうぞ教区の多くの皆さんに分かち合ってください。何日か前、教皇フランシスコがフィリピンを訪問された際に、フィリピンには、元氣、若さ、信仰、エネルギーが見えます、とおっしゃられました。仙台でもその若さ、その生き生きとした信仰を、どうぞ分かち合ってください。

この中で、結婚されている人は、どうぞ子どもたちに司祭やシスターになるように勧めてください。結婚されていない人は、よかったらこのミサの後、司教様のところに行って、神学生になりたいと申し込んでください。本当に皆さんの信仰によって、いつか、司祭、修道者の召し出しが生まれますように。これを希望して、終わりの言葉にしたいと思います。

もう一度、司教様と皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございます。」



